



「え、これ手作り作品、明るい作品」

宮沢地区新春作品展

2月23(金)～25日(日)、宮沢地区公民館で開催し昨年を上回り350名を超える来場者。

今年は75人の小さなサンタクロースがお出迎えした作品展で天候にも恵まれ多くの方が訪れた。児童の書道はじめ、絵画、写真、パッチワーク、生け花、バッグ、つる細工、つるし飾り、木工品、切り絵、美術品など、75人、380点の多彩な作品が展示された。工夫を凝らした力作ばかりで、鑑賞者は足をとめスタッフに質問していた。歴史保存会主催の特別企画「宮沢地区の著作物展示」を開催。24日は、佐藤良彦氏と横沢孝博氏による古文書説明会が行われ、参加した歴史愛好家たちは熱心に耳を傾けていた。作品出展者と準備に協力頂いた方、ご来場の方々、また、受付にベルマークを持ってきてくれた方(宮沢小の児童主催)ありがとうございました。

抽選で景品が当たるスタンプラリーは、3月1日抽選会です。当選者には、あとで連絡しますのでお楽しみください。



雪だ、遊ベエー

大崎市みやざわ交流事業

冬の雪体験塾として、2月25日(日)大崎市みやざわから児童と保護者総勢20名が、尾花沢雪まつり会場の徳良湖畔にやってきた。三浦振興会会長から「ここ数日前、ようやく雪が降った。みなさんを歓迎する雪です。おおいに遊んでください。」と歓迎した。早速、真冬のすいか割り大会に参加し、見事入賞の賞品を獲得した。巨大すべり台をすべった児童は、「怖かった。スリルある」と感想。お昼は、海苔のついたおにぎり2個と鍋コーナーの鍋をいただき、数年ぶりの雪まつり参加に満足していた。



宮沢小児童が取組中の「ベルマーク10,000運動」に、ベルマーク酒12点が2枚もありビックリ。数百点の協力をいただき、ここにも交流事業の輪が広がっている。



健康づくりセミナー・輪投げ大会

【市老人クラブ連合会】

■日時 3月22日(金)サルナート

9時～10時 健康づくりセミナー

・内容「私と家族の健康管理」

講師 県立中央病院理学療法士

岩井章洋氏(横町出身)

セミナーはどなたでも参加可能

10時30分～12時 輪投げ大会

各クラブから5名参加

【3月の行事予定】

日	内容
5日(火)	宮沢地区吹き矢大会
6日(水)	防犯協会宮沢支部役員会
	宮沢歴史保存会役員会
12日(火)	安全協会宮沢支部役員会
	代表区長会
22日(金)	市老人クラブ輪投げ大会
26日(火)	宮沢地区振興連絡協議会役員会

きらめき、かがやく、おいしさ 尾花沢の清流が育てた輝くお米 「雪きらり」を味わう会

参加者募集【主催：雪きらり研究会】

中刈集落の棚田で作られた「雪きらり」をスイカのエキスを使用したカレーでいただきます。

・日時 3月19日(火)10時～13時予定

・場所 宮沢地区公民館

・持物 エプロン、三角巾、マスク

・定員 10名

・会費 無料

・申込締切 3月13日(水)

宮沢地区公民館

(22-0433)



言葉は大事

館長 鈴木昭雄

毎朝中学生から「おはようございます」と声をかけてもらい、毎朝スタートラインに立った。一言で前向きになれることを痛感している。3月で退職。まだ、1か月考えることはある。

宮沢地区の人口と世帯

(2/1現在)(前月比)
男 783人 (-3)
女 765人 (-1)
計 1548人 (-4)
世帯数 582世帯 (-2)



5名、子どもたちの安全を願って防犯ブザー贈呈

【防犯協会宮沢支部】

2月15日(木)、4月から宮沢小学校へ入学する5名の皆さんに、防犯協会宮沢支部より防犯ブザーが贈呈された。菅野支部長から「事故に気を付けて元気に学校に通ってください」と、一人ひとりに手渡された。「はい!」と元気に返事をして受取っていた。



防犯ブザーの贈呈は、子どもが安全に登下校できることを願い毎年実施しています。子どもたちの安全を地域の人々で見守っていきましょう。

方言、つながりができる

【主催：宮沢翁塾】

天童市在住のシンガーソングライター山口岩男さんの講演会「食と方言と地域づくり」と加藤浩平さん(押切在住、チェロ奏者)と共演の演奏が、2月4日、宮沢地区公民館で開かれた。「方言は伝統的な道徳で、おじいちゃんやおばあちゃんが三世代同居の多いところはいじめが少ない。子どもを叱る時も、「ちょすな」など方言は伝わる。毎月常連の少数で集まる『さしむかいコンサート』を一年やってみんなで四季を体験し、面白いことをやっている。小さい事を続けることで幸せを感じてきている。どうでもいいお茶飲み話にも大事なことがある。続けることが地域づくりになるのでやってほしい」と、方言を交えて熱弁。ギターとチェロ共演で「山刀伐峠(山口さん編集)」演奏。会場からアンコールの拍手。

「さすけねえ〜」(大丈夫・問題ないよ・いいよ)



冬を彩るきらめく光

【集落イルミネーション事業】

2月24日(土)尾花沢雪まつりに合わせて市内各地でイルミネーションの点灯が行われた。趣向を凝らした素晴らしいイルミネーションの光が冬の夜を彩り、参加者からは「とても綺麗、来年もまた来たい。」などの声が聞かれた。宮沢地区では行沢、中刈、丹生2、丹生3の4地区が参加した。



宮沢と満州(10) 洪水防止に貢献し満人に感謝された中原さん(その1)

中島の中原光夫さんは当初南洋に渡ったがその後満州開拓団として入地召集され、敗戦後はシベリヤ抑留、復員後は農業研究会リーダーとして活躍。最後は八郎潟に入植し、満州で果たせなかった大規模農業を実現するなど波乱万丈の人生を歩んだ方です。

戦前、太平洋のサイパン、マーシャル諸島などは日本が国際連盟から統治委任されており、南洋と呼ばれ日本人が多く渡っていた。中原さんは明治末の生まれで次男だった事もあり、フロンティア精神が旺盛で南洋に渡り、御木本幸吉の真珠養殖事業に携わっていた。

太平洋戦争の発端となった日本軍のハワイ真珠湾の奇襲攻撃は有名だが、その真珠湾の名称だが、以前この湾は真珠養殖が盛んだった事に由来すると言う。アメリカとの関係が険悪化すると真珠養殖事業も閉鎖となり、中原さんは帰国して満州開拓団入植を決意する。以下は敗戦時5歳だった長男の康雄さん(宮沢中第7回卒、現秋田県八郎潟在住)が記憶をたどって話してくれた内容である。

満州からの引き揚げは、前号の佐藤武さん一家のように地獄絵図がほとんどであったが、例外もあった。中原さんの場合である。光夫さんがソ連に連行され、サダヨ夫人と長男の康雄さんと妹の3人の帰国であったが、現地人からは大変親切にされ、寝泊りも出来る食糧を積んだ幌馬車で4昼夜かけて大河の港まで送ってもらったと言う。(川は松花江のようだ) 中原一家だけでなく同じ村民全員が数十台の幌馬車を連ねてであった。この厚遇には理由があった。

ソ満国境の黒竜江の支流と思われる大河が毎年洪水をおこしていた。そこで洪水を防止するため大河を迂回させる工事を着工した。その工事に日本の開拓団が協力して終戦時には800米の堤防を完成させた。さらなる利点として、川を迂回させたために八郎潟の3倍もある大面積の干拓農地が出現した。敗戦が決定的になると関東軍は撤退する時、理由は不明だが、満人と開拓団が力を合わせて築堤した堤防をダイナマイトで破壊しようとした。それを開拓団が阻止したと言うのである。その感謝の気持ちが引き揚げ時の恩返しになったと思われる。全満州引き揚げの事例でも貴重な物語である。これまでの現地人との信頼関係が評価されたと思われる。

文責 宮沢地区歴史保存会 三浦幹雄



中原光夫さん



開拓団の夫人たちの多くは幼子を抱えていただけに悲劇は倍増した

稲摺作業

日本から送った稲摺り機で



開拓団名と人数